

大に悦服し、露政府が嫌忌するにも拘らず、族を擧げて喇嘛黄教の信徒と爲るに至りたり。以て喇嘛教感化の勢力を推知するに足る。

清廷の信  
頼

清廷は本來佛教を信すること厚からざるに非らず。然れども最も深く信賴するものは、西藏の喇嘛黄教に若くは無し。隨て從來の支那佛教は、殆んど顧みられざるが如し。

外藩統治  
の政策

喇嘛黄教の勢力は、深く蒙古各種族の頭腦に入り、其の悦服隨喜、抜くべからざるもの有り。尙ほ遠く東方滿洲に侵入し、且つ又露領布哩雅特族の間にまで進入し、中央亞細亞の地を風靡するに至る。是を以て清廷は、益々尊信するのみならず、之を一種の政略に併用し、北京は勿論多倫諾爾にも、廣大壯嚴なる寺院を建立して「チャングー」喇嘛を優待し、以て清廷と達頼との連鎖と爲し、及蒙古各族の民心を收攬しつゝ在り。其の達頼の選舉ある毎に、手段を盡して、蒙古及西藏の僧侶中、政府に忠實なるものを選出せしむる等外藩を統治する政策上深き注意を拂ひつゝ在るなり。

新疆に於  
ける喇嘛  
教

新疆に於ける吐爾扈特族の信奉する喇嘛教は、即ち黄教なり。黄教の多く新疆